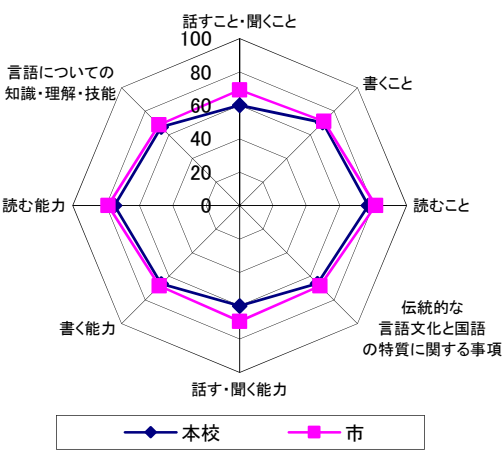


宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	60.1	69.3	73.4
	書くこと	70.4	71.3	74.6
	読むこと	77.1	81.5	81.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	66.0	68.1	71.6
観点別	話す・聞く能力	60.1	69.3	73.4
	書く能力	66.3	68.1	71.7
	読む能力	75.0	78.8	79.0
	言語についての知識・理解・技能	66.4	68.4	72.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

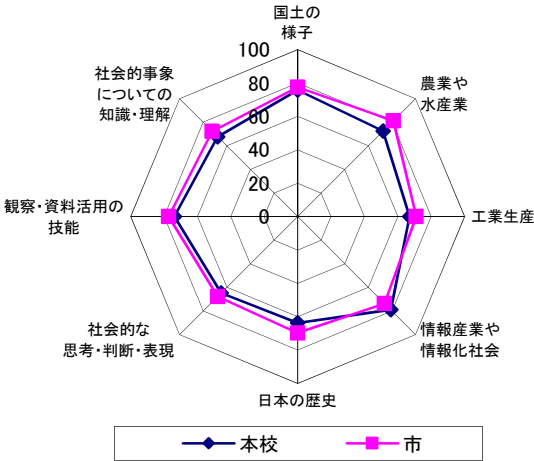
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●話し手の意図や話し方の工夫を考えながら聞くことができていない児童もいる。	・学習中、最後まで話を聞く態度を徹底的に身に付けさせたり、大切だと思う言葉をメモさせたりして、集中して話を聞く力を身に付けさせる。
書くこと	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○グラフの内容を読み取って、文章に適切に書き表すことができています。 ●理由や事例を挙げて文章を書くことが苦手な児童が多い。	・文章を書く際に、今までの体験を織り交ぜさせたり、なぜそう考えたのか理由を考えさせたりしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○登場人物の心情を読み取ることができている。 ●場面の描写や、文章の内容を的確に読み取ることが苦手な児童が多い。	・物語文では、山場やキーワード等を丁寧に読み取っていくことで、場面や情景をイメージしやすいようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○第6学年配当漢字を読むことができています。 ●第5学年配当漢字を書いたり、読んだりすることが苦手な児童が多い。	・第5学年までに学習した漢字も、朝の学習や国語の授業で、文の構成の復習をする時間を設ける。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	75.8	77.5	74.0
	農業や水産業	72.4	81.1	73.7
	工業生産	67.1	71.1	73.5
	情報産業や情報化社会	78.9	73.7	63.2
	日本の歴史	63.7	69.7	73.5
観点別	社会的な思考・判断・表現	64.6	67.7	63.1
	観察・資料活用 of 技能	73.7	77.3	75.5
	社会的事象についての知識・理解	67.7	72.2	73.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

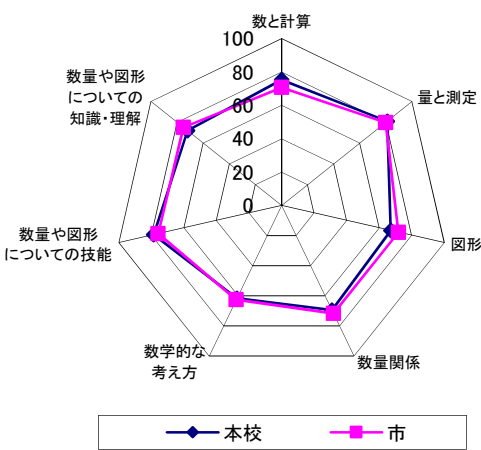
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	平均正答率は、市の平均より低い。 ○日本の周囲の国の国旗を理解している児童が多い。 ●日本の気候の様子について、雨温図と都市の位置を判断することが苦手な児童が多い。	・地図帳を活用して、様々な都市の位置や気候の特徴について定期的に確認する。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均より低い。 ●資料を正しく読み取ったり、そこから理解できたことを書きまとめたりすることに課題がある。	・資料から分かることを言葉でまとめたり、考察したりする活動を積極的に取り入れるとともに、資料から判断できることは何か読み取っていけるように、算数科との連携を図る。
工業生産	平均正答率は、市の平均より低い。 ●工業地帯の立地等の資料を読み取り、考えることが苦手な児童が多い。	・工業地帯についての復習を行ったり、地図帳や写真を使って、工業地帯の特徴を読み取らせたりしていく。
情報産業や情報化社会	平均正答率は、市の平均より高い。 ○身の回りのメディアについて理解をしている児童が多い。	・5年生で習った内容についての復習を今後も継続して行う。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均より低い。 ●鎌倉時代と室町時代の理解が乏しい児童が多い。	・教科書や資料集を活用して、それぞれの時代の復習を行う。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	75.4	70.8	65.9
	量と測定	81.1	79.9	77.0
	図形	67.1	71.8	74.6
	数量関係	69.5	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	61.7	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	78.6	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	72.1	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

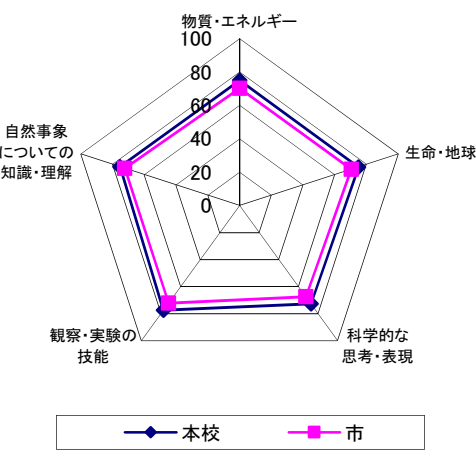
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より高い。 ○小数、分数ともに計算の仕方を理解している児童が多い。	・数量関係を捉えるための方法として、図や数直線を用いて考える習慣を付ける。 ・朝の学習、家庭学習、習熟度別学習で基礎・基本の定着を図っていく。
量と測定	平均正答率は、市の平均より高い。 ○割合や面積、体積の求め方を理解している児童が多い。	・朝の学習、家庭学習、習熟度別学習で基礎・基本の定着を図っていく。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●線対称や点対称の図形への理解が深まっていない児童が多い。 ●合同な三角形の作図が苦手な児童が多い。	・「対称な図形」について、朝の学習や家庭学習で復習をし、定着を図る。特に、線対称・点対称どちらでもある図形に着目する。
数量関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ●割合についての資料から読み取った情報を、具体的に説明することに対して課題ある児童が多い。	・割合や比の意味を理解できるよう、図や数直線、グラフなどを用いて繰り返し指導し定着を図る。

宇都宮市立豊郷北小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	75.1	70.3	69.0
	生命・地球	75.0	70.4	70.2
観点別	科学的な思考・表現	72.7	67.5	66.4
	観察・実験の技能	77.5	72.3	68.9
	自然事象についての知識・理解	75.3	72.3	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○水溶液の性質では、リトマス紙の性質を指摘したり、水溶液に固体が溶けているかを調べたりすることができる児童が多い。 ●電磁石の性質やはたらきの理解に課題がある児童が多い。	・体験的に理解を深めていけるようにする。 ・課題を解決するためにどのような実験を行えばよいか、自分自身で考えたり話し合ったりする活動を充実させるとともに、実験の結果からどのようなことが分かるのか、自分の言葉でノートにまとめられるよう支援していく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より高い。 ○動植物のつくりとはたらき等、生物分野については概ね身に付いている。 ●食物連鎖について理解している児童が少ない。	・日常生活と関連させながら、興味・関心を高めていくとともに、身近な現象や出来事を科学的に考えたり説明したりする機会を設ける。 ・図やモデル、映像教材を活用して視覚的に理解できるようにする。

宇都宮市立豊郷北小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習における基礎基本の定着	習熟度別少人数指導、かがやきルームやTTでの指導を通して個に応じた学習支援を行う。 習熟につながる復習プリントや宿題の内容の選択をする。	・「自分から進んで取り組んでいる」の質問については、平均82.2%(昨年は83.9%)で、「勉強をしていておもしろい楽しい」の質問に肯定的回答をした児童の割合は平均91.2%(87.5%)で、学習への取組に対しての意識が育っている。
学習のねらいを達成させるための学び合い	授業の初めにめあてを提示し、まとめやふりかえりまでの流れが分かるように板書を整理しながら自分の考えをノートに書く習慣を身に付けさせる。ペアやトリオ、グループ、全体での話し合い活動を取り入れながら、協働的学びを充実させる。	・「授業で習ったことを分かりやすくノートにまとめている」の質問に肯定的回答をした児童の割合は各学年ともに高い。
家庭学習への取組	家庭学習のてびきを活用し、学年便りや懇談会などを通して家庭学習の在り方や習慣化、親子の関わり方などについて保護者に説明し意識を高め、児童への取組について称賛や個別指導を行う。年3回の家庭学習強化週間実施によりチェック表で親子それぞれで振り返りを行うことで、家庭学習に取り組む態度を育ていけるように指導、啓発する。	・「宿題を期限までに提出している」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、82～97%である。 ・3～6学年の「家の人あなたの学習に関心があり、必要な注意やアドバイスをしてくれる」の肯定割合は72～95%とバラつきがある。「自分で進んで家庭学習に取り組んでいる」については平均68%である。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・学力調査では、記述問題や長文を読んで答える問題に苦手意識が高い傾向にある。問題形式に慣れるように過去問題だけでなく苦手な問題を多く解くようにし、問題を解くコツを身に付けるようにする。学力差は個人や教科にもみられるので、基礎基本の定着と共に、褒めたり励ましたりしながら、「分かるできる」という気持ちから学習への自信につながるような指導を継続していく。

・家庭学習においては「計画的に自主学習する」「授業で習ったことをその日のうちに復習する」の項目で市の平均を超えてはいるものの60%台なので、家庭学習の習慣化のために、継続的に宿題や自主学習の課題の出し方を工夫したり、保護者への啓発を図ったりする。また家庭学習コーナーを設け、各学年から選ばれたの家庭学習ノートの紹介することで、児童の学習意欲を高め、進んで取り組む児童の育成に努めたい。